



I-OWA マンスリー・セミナー講演より バフェット・バブル? 「バフェットの法則」から何を学ぶか

講演: 岡本 和久、レポーター: 川元 由喜子

今年も5月3日に、ウォレン・バフェット率いるバークシャー・ハサウェイの株主総会が開催されて、大変多くの人が集まったと言われています。バフェットは大変優れた投資家ですが、表面だけを真似るのは危険です。みなさんも私もバフェットではないのですからね。では、個人投資家として彼から何を学んだらよいのでしょうか。

バークシャー・ハサウェイは、元々、綿花を生産する古い繊維会社で、1965年にバフェットがパートナーシップで買った会社です。その後、バフェットとパートナーたちは経営権を取得し、繊維事業から撤退、同時に保険会社や鉄道会社を買収し、製造業や小売業も保有する持ち株会社のようになっていました。こういう成り立ちなので、バフェットとしては、証券というよりも事業を買っているんだ、投資と企業経営は同じだという意識が非常に強いのです。これは重要なことだと思います。

バフェットは自分の投資手法について、「15% フィリップ・フィッシャー、85% ベンジャミン・グレアム」言っています。グレアムというのはバリュー投資の始祖であるだけでなく、正に「元祖証券アナリスト」。徹底的な分析に基づいて、価値よりも株価の安い株式を買うというスタイルです。一方のフィッシャーは、定性的な分析による成長株投資。並はずれて優秀な企業を、誰も注目しないうちに買って、忍耐強く持ち続けるのです。この二人の考え方を併せ持つ形で、バフェット流の銘柄選択が出来ているのです。

事業を選ぶ上では、シンプルで、自分で理解できる事業であり、安定した事業実績があること、そして長期的に見通しが明るいこと。経営者は合理的で、株主に対して率直に話し、組織の習性に屈せず自分の信念に基づいて経営を続けていける人物であること。これらの点をバフェットは重視しています。

また財務については、一株あたり利益ではなく株主資本利益率を重視し、外部からの資金調達をせずに済むだけの十分な利益(オーナー利益)をあげているかどうか、利益を留保する場合は、株



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

式市場でより価値の上がる使い方をしているかどうか。そして、その事業の価値を、将来にわたるキャッシュフローを現在価値に割り引いたものから算出し、それよりも遥かに安い金額で買うことを考えるのです。

バフェットは知識の無い投資家向けには、定期的にインデックスファンドに積立投資をすればプロよりいい成績をあげられるとアドバイスしていますが、投資知識がある程度あってビジネスの数字を理解できるならば、フォーカス投資、つまり長期的にビジネスの優位性を保ちながら株価が割安な企業を5~10銘柄ぐらい保有するという方法を勧めています。あくまで企業の一部を所有するつもりで、大きなチャンスには大きく投資し、そして永遠に保有するのが理想であると言っています。

講演では、バフェットの重視する「オーナー利益」や「ルックスルー利益」といった概念の詳しい解説や、ビル・ゲイツの財団に巨額の寄付をしたエピソードなどのお話を伺いました。さらに、現実の市場と、理論上の完全な市場との関係に議論が及び、最後に「バフェットの手紙」から、投資の基礎について、いくつかのメッセージを紹介していただきました。